

会議議事摘録

会議名	2020年度第3回学校関係者評価委員会
開催日時	2021年3月28日(日曜日)10:00~12:00
場 所	本校506教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、磯田眞美(保護者)、伊藤由紀(高等学校関係者)、篠塚 功(医療事務関連業界関係者)、西村拓也(くすり関連業界関係者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、(計8名)</p> <p>②本校：橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、小田真理子(キャプションライター養成科学科長)、村山由美(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、三宅かおり(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、熊谷 崇(介護福祉科教員・教務委員長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長)、前田律子(看護科担当副校長・学科長)、伊東由美(看護科副学科長) (計12名)</p> <p>③事務局：松本晋圭、土屋瑠美子(委員会事務局) (計2名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計22名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>①事前送付：</p> <p>□資料1：2020年度第2回学校関係者評価委員会議事録案、□資料2：2020年度第2回委員会以降の主な経過報告 別添A：2020年度進路決定状況、別添B：2020年度教員研修計画・実績、別添C：2020年度後期授業アンケート集計結果、□資料3：2020年度の重点目標と達成するための計画・方法、資料4：2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み、□資料5：2020年度学校関係者評価報告書案</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>先日、無事卒業式が行われた。昨年のこの時期は、卒業式も入学式もできず、授業も5月の連休明けからオンラインで始まった。実習は一部学内実習に切り替えたところもある。本校の教職員はこの1年間、突然の事態の中で自分の役割をきちっと果たしていただいた。次年度に向けて、ウイズコロナ、アフターコロナの時代の教育としてオンラインをどう生かしていくかが重要になる。</p> <p>教育の質的な面では、資格取得、検定試験において特に看護、介護、鍼灸の国家試験は水準以上の成果を上げ、診療情報管理士の認定試験も非常によい結果が出ている。学生は卒業式などでも静かに臨む姿勢が見え、生活指導面でもよい成果が出ている。学生募集については、次年度に向けてより裾野を広げていきたい。</p> <p>学校関係者評価委員会は職業実践専門課程の認定が背景にあるが、先週、看護科の認定が通知された。今後、くすり・調剤事務の分野と合わせ、全部で4つの分野で職業実践専門課程の認定を得ることになる。それぞれの教育課程編成委員会と本委員会で皆様のご意見を伺いながら、よりよい学校を目指していきたい、との挨拶が行われた。</p>

2. 前回委員会議事録の確認（資料1）

委員長より諮ったところ、伊藤委員より、総評部分の発言について補正の申し出があり、当該部分を修正した上で所定の手続に従って公開することが確認、了承された。

3. 2020年度第2回委員会以降の主な経過報告（資料2）

2020年度第2回委員会以降の主な経過について、各担当者からの報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 2020年度重点目標の取り組み年度末点検報告（資料3）

橋本校長より重点目標の取り組み状況について年度末点検報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み年度末点検報告（資料4）

各担当者が記述した年度末点検に対して、ページごとに追加コメント、質問・意見をいただく形で確認が行われた。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

6. 2020年度学校関係者評価報告書の確認（資料5）

前回委員会でいただいた各委員の総評を追加し、改めて2020年度学校関係者評価報告書の内容について意見を求めたが、特段修正等の意見がなかったため、この内容で報告することが承認された。

7. 意見交換など

詳細は別紙のとおり。

8. 2021年度の委員について

事務局より、今回をもって保坂委員と磯田委員が任期終了となる。2021年度からは記録業界関係の学科がなくなるので、7名の委員によって構成されるとの説明があり、磯田委員、保坂委員より退任の挨拶が行われた。

次に、保坂委員長より、次期委員長について石川委員を推薦したいとの提案があり、拍手をもって承認された。これを受けて、石川委員より挨拶が行われた。

9. 次回日程、その他

例年7月に第2回目の委員会を開催している。東京オリンピック・パラリンピックの関係があるので、日程は検討の上、調整させていただきたいとの報告があり、確認、了承された。

以上

2020 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 2020 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告

○宮下事務局長、熊谷教務委員長、事務局松本より資料 2 に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連（説明者：宮下事務局長）

(1) 卒業関連

・ 3 月 11 日（木）に卒業式・修了式が行われた。

(2) 2020 年度進路決定状況（資料 2-A）

・ 医療事務系の学科は昨年を上回る求人数を確保できた。職種別では医師事務作業補助者、調剤事務の増加が目立つ。

(3) 退学の状況

2. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況（2 月末時点）

3. 教務委員会関連（説明者：熊谷教務委員長）

(1) 2020 年度教員研修計画・実績（資料 2-B）

・ 前回委員会以降に追加された研修は備考欄に記入している。

(2) AO 入試入学予定者への入学前指導プログラム（スクーリング）

・ 3 月に開催を予定し準備を進めてきたが、緊急事態宣言の発令を受け中止した。

4. アンケート関連（説明者：事務局松本）

・ 前期は新型コロナウイルス感染症の影響で授業の開始が遅れ、授業回数が一定ではないこと、また、初めての Web 実施であることから専任教員のみを対象とした。後期は兼任講師を含め全ての授業を対象に行った。

・ 前回委員会で篠塚委員より回答の割合を示すと分かりやすいとの意見をいただいたが、個々の授業について先生方にフィードバックする資料には回答比率が記載されている。

5. 職業実践専門課程関連（説明者：事務局松本）

・ 全部で 4 分野の教育課程編成委員会を資料記載のとおり実施した。

6. 2020 年度活動の自己点検・自己評価関連（説明者：事務局松本）

・ 資料記載のとおり。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
①教員研修の参加者が特定の人に偏っていることはないか。 ②伝達研修は行われているか。 ・オンライン授業のときに URL の承認が取れなくて参加できなかったり、音が聞こえない状	①満遍なく参加している。 ②学科内で研修資料の回覧や会合時に概要の伝達をしている。教務委員会で研修後のフォローの仕組みを構築する予定である。 ・急遽始まったため設備面が不十分であったり、教員も慣れていないところもあった。

<p>態で経過したことが若干あったと聞いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が与えた G-mail アドレスのアカウントで入らないといけない。そのことは何度も案内して徹底してきたが、当初はうまくいかないことがあった。 ・音声が届かない件については、再起動すると解消するケースもあった。
------------------------------	--

次第 4. 2020 年度重点目標の取り組み年度末点検報告

○橋本校長より、資料 3 に基づき、今年度の重点目標とその達成のための取り組み状況について、以下のとおり年度末の点検報告があった。

① T P C の育成と強化

行事関係がほとんど中止になり、朝の挨拶運動も十分にできなかった。新型コロナウイルス感染症対策に加え、熱中症対策で非常にストレスのある中、本校の学生は感染症に対する意識が高く、しっかりしていることに感心した。資格試験、検定試験の合格状況はかなり向上し、授業に取り組む姿勢など生活面もしっかりしてきたが、引き続き引き締めて進めていきたい。人生百年時代、世代間ギャップが年々広がる中で学生目線に立っての教育を肝に銘じていきたい。

② 学び直し等の教育プログラムの開発

18 歳人口が減少する中、卒業生を含めた社会人の学び直しの教育、介護分野の外国人教育など、裾野を広げて進めていきたい。

③ ビジョンの共有とアクションプランの策定

新型コロナウイルス感染症禍の中での教育に戸惑いもあったが、危機的な状況の中で教職員がまとまったところもある。新たに出てきたオンラインの芽を共有しながら、有効活用を図っていきたい。制度的にも一部在宅勤務を認める規程もできたので、次年度に向けてオンラインを活用しながらアクションプランを充実させていきたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>・オンラインでどのような取り組みをしたのか。また、1 年間やってみて課題は見つかったか。</p> <p>・Zoom でもグループワークはできるが、この学校が大事にしている対話力を育てるのは難しいと思われる。授業が終わった後に少し話したり、悩みを相談したりする、人とのかかわりが制限されている方法だと思うので、対面や行事も含めて対話力をつけるカリキュラムが重要ではな</p>	<p>・教務委員会として「教育研究」に今年度の取り組みと新年度への課題を論文にまとめている。</p> <p>課題としては、①教員からの一方的な発信にならないよう、いかに学生に参加を促すか、②オンライン仕様の資料作成、効率的な配信、情報の連携、③学生の主体性への支援、④ICT リテラシーの理解などが挙げられる。</p> <p>・オンラインのメリットは、①学生に対して公平な授業を行える（座席や周りの雑音に影響されない）、②1 対多数で機能を発揮できる、③出席率が高い、といった点が挙げられる。デメリットは、①資料をオンライン用に作り直さないと分かりづらい、②コミュニケーションが取りづらい、などがある。学生</p>

<p>いかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療事務系のオンライン授業はどのくらいの比率を占めているのか。対面とオンラインのバランスについては慎重に扱ったほうがよいと思う。 ・事務の専門性を評価するにあたって、医療経営士の資格を取り上げる病院が増えてきた。資格取得のための勉強はオンラインでやりやすいし、地域も限定しないので、裾野を広げる意味でそういうコース選択があってもよいと思う。社会人で医療経営士を目指している人たちは、将来、事務部長などになっていくので、就職のときの関係も作りやすい。 ・オンラインに関しては、自分自身の熱意によるところが大きいので、高校生ではモチベーションの維持が難しい。対面でやるからこそ職業人としての意識づけができると思う。 ・オンラインで研修をしているが、録画して何度も見直しができるメリットがある。また、外国人の方々がいると雰囲気明るくなるので、海 	<p>に「先生とオンラインでしか会えないのは寂しい」と言われたとき、やはり対面授業が基本であることをしみじみ考えさせられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面の良さを改めて感じているので、新型コロナウイルス感染症禍ではあるが、人と接する機会をより多くつくっていききたい。医療事務分野では、知識伝達型はオンラインを有効に活用し、演習系は対面型に組み立て直すことも次年度予定している。 ・医療マネジメント科はオンラインができる科目を特定の曜日に集めて行い、対面授業開始後、1年生は全部対面にした。2年生はクラスにより、週に3～4回登校、2～1回オンラインとした。2021年度は週5日全て登校しての対面授業を基本とする。ただし、診療情報管理専攻科はオンラインに適する科目が多数あるので、週3回登校、2回オンラインでもよいこととした。1年生は毎日学校に来て、友達や先生と話す状況をつくるのが肝要と思っている。 ・今後、医療関係の仕事が増えていく中で、関連ビジネスも含めて個々の学生の適性に即した就職指導を考えていく。社会人については、卒業生支援講座などと絡めて、生涯続く学びをサポートしていきたい。 ・卒業生から医療経営士を取りたいという話が来て、兼任教員が開いているセミナーを紹介した。 ・1年担任にヒアリングしたところ、入学直後にオンライン授業が行われたことで自宅学習の習慣が身についた、対面授業の良さをあらためて実感したという学生の声があった。今後はオンライン、対面のそれぞれの良さを生かし、より学習効果の上がる活用を続けることが大事だと思う。 ・ご意見として承った。
--	---

<p>外の人たちとの交流によって、対面が少なくなった分を補えると思っている。学生時代から海外の人たちと交わるような教育ができてくるとプラス面がかなりある。</p>	
---	--

次第5. 2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み年度末点検報告

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<ul style="list-style-type: none"> ・看護科で東京都より貸し出しを受けたシミュレーターとはどういうものか。 ・看護科では、国家試験前1か月は自宅学習期間としたとあるが、これは全てオンラインで行われたのか。それとも学生が自主的に自宅学習をして、高い水準の結果が出たのか。 ・卒業式の資料で、学科別の資格取得、検定合格数の一覧表があったと思うが、それをこの委員会にも出していただけないか。 ・CSCで2020年3月の卒業生に対して感染症の影響を考慮して調査を行っているが、その内容の検証や学科に対するフィードバックはされたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬患者的なもので、東京都が校内実習用に貸し出すことになり、活用させていただいた。 ・看護科はほとんどオンライン授業を取り入れられなかった。国家試験対策に関しては、1か月ほど集中的に対面授業を行い、その後1か月は感染予防のため自学自習としたが、これはある面学生の自立にもつながったと思う。 ・必要であれば出すことはできる。 ・調査は、自宅待機になっているか、採用の取消しが起こっているか等を調べるために行った。学科へのフィードバックは把握していないが、採用取消し等の重大な案件はなかったと把握している。

次第7. 意見交換など

○学生の進路指導について、高校の先生と専門学校の教員とで意見交換をしていく必要性があるのではないかと思ったので、アドバイスをいただければと思う。

○現状では高校の教員は看護希望者に対して十分な指導をしているので、さらなることを求めるのは難しいと思う。

以上